

【九州教育研究連携・共同部門】研究代表者：高良 祐治 「福岡県教育センターとの連携による動画コンテンツを活用した 教員研修プロジェクト」

研究の概要

◆課題認識

・これまでも本学では様々な研修動画を開発・作成してきたが、それらの活用方法の多くは、一方的な視聴にとどまっており、受講者がより主体的に研修に取り組むことが出来る運用の在り方が課題である。

◆研究の目的

・研修実施者と受講者の双方向性を実現し、実態に応じた研修を実現できる動画コンテンツの作成や運用の在り方について究明する。

◆研究の方法

・福岡県教育センターのICT環境を活用した新たな研修方法について教育センターと協議を行う。
 ・受講者への問いや解説を盛り込んだ研修動画の作成を教育センターと本学教員の共通理解のもと行う。
 ・若年教員研修（中学校社会科）において、双方向性のある研修プログラムを開発、実施することで、受講者の主体的な研修をより促進することについて検証する。

研究のポイント・成果

◆研究のポイント

①動画作成の工夫

・教育センターと大学教員との協議において、研修担当指導主事から学習指導要領に立ち返り、社会科の基本に関する講義動画作成の希望があった。そこで、動画の中で3つの問いを受講者に投げかけ、その問いに対して各受講者が自身の考えをつくり、受講者同士で協議したりした上で講義を行う動画構成とした。

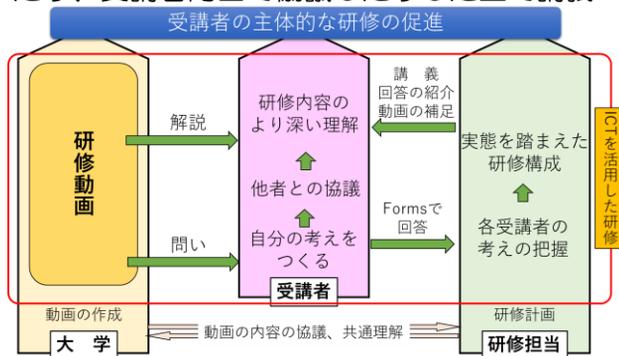
②研修の進め方の工夫

・動画の導入を視聴(問いの提示)→受講者が問いに対する自身の考えをPC (Google Forms) に入力。同時に研修担当指導主事は受講者の入力内容を確認。→受講者同士で協議。→大学教員の解説動画の視聴。→受講者の入力内容に応じた指導主事による講義。

◆成果

・受講者からは、「従来の一方的なオンライン講義より研修に取り組みやすい」「自分の考えをいったん整理した上で、講義を聴くことが出来るので理解しやすい」等の評価が得られ、主体的な研修を促進することができた。
 ・研修担当指導主事からは、「大学と研修の目的を共有した上で研修の計画や動画作成を進めることができた」「受講者の実態を把握した上で講義ができるので、研修が進めやすい」等の評価が得られ、動画コンテンツ運用の在り方について新たな提案ができた。

受講者の入力内容を紹介しながら講義を行う指導主事→



今後の課題

◆他研修、他教科等における動画コンテンツの活用の在り方の検証

・ICT機器を活用した受講者の入力内容について、研修への活用の在り方については、受講者が「自分の考えが研修に活かされた」と実感できる更なる工夫が必要である。
 ・他の基本研修や専門研修、他教科等においても本研究の有効性について検証を重ねていく。